

お子様のいるご家庭へ
溶連菌って
なあに？



監修：しんどう小児科 院長 進藤静生 先生

01

溶連菌とは？

溶連菌とは、溶血性連鎖球菌という細菌で、 α 溶血と β 溶血の2種類があり、さらに、A群、B群、C群、G群などに分類されます。この細菌による感染症の90%以上がA群溶血性連鎖球菌（A群 β 溶血性連鎖球菌）によるものとされています。くしゃみや咳から唾液が飛び、それを口や鼻から吸い込むことで感染する場合（飛沫感染）と皮膚どうしが触れたり、タオルやコップ・水筒などの回し飲みなど食器等を介して感染（接触感染）する場合が大半で、2～5日間の潜伏期間を経て症状があらわれます。

流行時期は4月～7月と11月～3月といわれていましたが、最近では1年間を通して認められます。しかし、夏休みや冬休みは子ども同士の接触が少ないため減少傾向です。

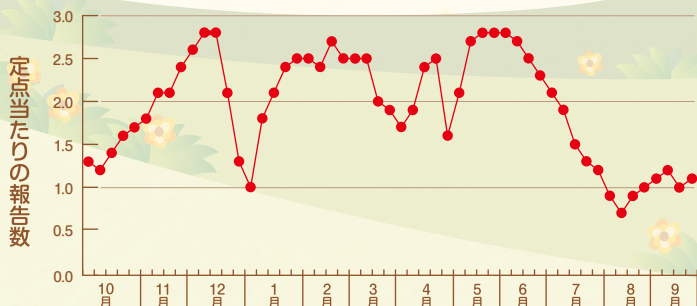


図 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数推移（過去10年平均）

主な症状は、発熱（微熱～高熱）、のどの痛みで、体や手足に小さく紅い発疹がでたり、舌にイチゴのようなブツブツがでたりすることがあります。頭痛、腹痛、首筋のリンパ節の腫れがみとめられることもあります。

小児に多く発症しますが、保護者である両親もかかることがあります。1度かかっても繰り返しかかることがあります時には合併症（続発症）として、心臓弁膜に障害を起こすリウマチ熱や急性腎炎を起こすことがあるので注意が必要です。



のどの紅い発疹



イチゴ舌



02

溶連菌感染症の 診断

最近、非常に簡単に診断できる迅速検査キットがあります。のどの材料を用いて溶連菌かどうかの鑑別を検査できるようになりました。お薬の処方を決めるうえでも大切な検査です。溶連菌かどうかの判断は、このキットの結果と併せて医師が臨床症状や流行等の状況も合わせて総合的に行います。



03

溶連菌感染症の 治療

溶連菌感染が判明すると、熱やのどの痛みをやわらげるお薬のほかに抗菌薬が処方されます。

抗菌薬は病気の原因となっている溶連菌を退治する重要なお薬です。

通常10～14日間*のお薬を服用する必要があります。

*小児呼吸器感染症診療ガイドラインやJAID/JSC感染症治療ガイドラインでは、セフェム系抗菌剤では5日間の服用との記述があります。

注意

- ◆ お薬を飲み始めると2～3日で熱が下がり、のどの痛みもやわらいでますが医師の指示通りお薬を飲み続けてください。
- ◆ 途中でお薬の服用を中断してしまうと、生き残った細菌が炎症を再発させたり、ときにリウマチ熱や急性腎炎といった合併症(続発症)につながる可能性があります。
- ◆ 一旦症状がなくなった後、再度熱が出たとか、体がむくんだり、尿の色が赤くなってきたなどの症状がある時には再度医療機関を受診しましょう。



04

登園・登校時期 について

抗菌薬を飲み始めて24時間以上経過し、
全身の状態がよければ、医師の許可をもらってから登園・登校しましょう。



05

感染予防 について

日常生活でも以下の点に気を付けましょう。

- ◆ せっけんでの手洗いやうがいをしましょう。
- ◆ 家庭内ではタオルや食器などを別々に使用しましょう。
- ◆ 外出時はマスクを着用しましょう。



かかったかな？と思ったら・・・
何よりも早めにかかりつけの
医療機関を受診しましょう。
安静・休養・睡眠を十分にとり
水分補給を忘れずに。

病院・診療所名



株式会社 タウンズ